

福岡大学病院における薬剤師レジデントによる病院早期体験学習への取り組み

(1)

○山本 知佳<sup>1,2</sup>, 上野 雅代<sup>2</sup>, 鷺山 厚司<sup>2</sup>, 土倉 史香<sup>2</sup>, 湯田 朋子<sup>2</sup>, 有吉 紀子<sup>2</sup>, 座間味 丈人<sup>2</sup>, 菖蒲 綾乃<sup>2</sup>, 末吉 申弥<sup>2</sup>, 松永 朋恵<sup>2</sup>, 二神 幸次郎<sup>1,2</sup> (福岡大薬,<sup>2</sup>福岡大学病院薬)

【目的】近年、医療における薬剤師の位置付けが明確化され、チーム医療の一員として高度な薬物療法に対応できる質の高い薬剤師の養成が求められている。福岡大学病院薬剤部では、卒後研修である薬剤師レジデント（以下、レジデント）制度を平成18年4月より開始している。レジデントコースはチーム医療を実践できる質の高い薬剤師養成を目的としており、実務実習の他、講義や院内ラウンドへの参加などを取り入れている。今回、我々は、「教学相長ず」と唱われるように、人に教えることは自分が学ぶことにも繋がることより、レジデントによる薬学1年生への病院薬剤師業務の早期体験学習指導を実施したので報告する。

【方法】早期体験学習は平成19年9月4～7日の5日間で行い、福岡大学薬学部1年生を延べ93名実施した。学習内容は、病院薬剤師の各業務についての説明・見学、また実務体験（軟膏混合、注射剤の配合変化、簡易懸濁法、服薬指導のロールプレイ）の2つから構成した。レジデントによる指導の有用性については、早期体験学習終了後、薬学生とレジデントにアンケート調査を実施し評価した。

【結果・考察】薬学生に対するアンケート調査の結果、今回の早期体験学習に対して全員が「とてもよかった」「よかった」と回答した。病院薬剤師業務への理解については98%の学生が「よく理解できた」「理解できた」と回答した。また、レジデントへのアンケート調査では、準備に負担を要したが、今回の早期体験学習に対して、5人全員が「有意義であった」と回答した。この他、「人に教える難しさを知った」「病院での仕事を改めて勉強することができた」との意見もあった。以上のことから、今回の薬剤師レジデントによる早期体験学習は、薬学生、レジデント双方にとって有用であることが示唆された。